

# 上関 未来通信

No.39  
正月号  
通算 353号

発行 令和4年1月11日



上関町まちづくり連絡協議会

代表幹事 藤井 快宏

上関町でも各種の祭り、イベント等が中止されました。その中で、町内では比較的早期にワクチン接種が進み、徐々に以前の日常生活に戻りつつあるのは明るい兆しではないでしょうか。

原子力に目を向けると、10月31日に始まった国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）では、世界的に問題になっている温暖化防止対策としてCO2削減策が話し合われました。原子力発電が有効な手段であることに異論の余地はなく、すでにヨーロッパ各国では原子力発電推進の機運も高まっているようです。

日本では、昨年10月に『第6次エネルギー基本計画』が策定されました。今回は残念ながら「原子力の新生・リプレイス」は明記されませんでした。経済界はもちろん政治家からの要望も強いことから、今後は議論が進んでいくことと思います。

また、島根原子力発電所2号機の安全審査合格も明るいニュースでした。上関地点の一日も早い準備工事の再開を望んでいます。

当会では本年も、「上関原子力発電所の立地を契機とした活気ある豊かな町づくり」に向け、講演会や勉強会等の理解活動を行ってまいります。今後も、変わらぬご理解とご支援をお願いいたします。

最後に、本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

令和四年一月吉日



2022 寅

イラスト/古泉祥央氏

# 頌春

## 2021年の出来事

- 1/20 上関未来通信35号（正月号）発行
- 4/13・14 青壮協三役で「第54回原産年次大会」の講演会などをオンライン視聴
- 6/8 原産年次大会を受けて、青壮協三役会で意見交換を実施
- 6/28 上関未来通信36号発行
- 9/7 島根原子力発電所2号機・新規制基準適合性審査合格を受け、上関事務所の清水雄一副所長にインタビュー
- 10/11 上関未来通信37号発行
- 10/26 原子力の日（のぼり設置・街宣活動）
- 10/30 青壮協エネルギー勉強会を開催（オンラインで杉山一弥氏の講演と意見交換）
- 11/30 上関未来通信38号発行



# 貫いてきた町づくりへの思い

町連協は、前身の「上関町の発展を考える会(以下「発展会」)の時代から、町づくりや原子力発電所誘致に向けた様々な活動を行ってきました。今回は「活動を振り返る」シリーズの3回目として、これまで行ってきた活動について振り返ります。まずは発展会の設立から町連協発足までの約10年間の活動を振り返ります。

## 勉強会と視察の2本柱

発展会は1982年12月に発足しました。初代会長は上関町商工会会長の田中正巳氏が務めました。



原子力の日街頭演説する田中正巳会長(1989年当時)

最初に行ったのは役員を選出です。会の発足にあたり、3名の副会長、13名の幹事と2名の青年部代表、2名の監事を選定し、規約(会則)を定めるとともに、企画委員、広報委員、組織部会委員などを選定して、様々な活動を開始しました。当初から力を入れて取り組んだのが原子力発電所立地点(先進地)の視察と、町内での講演会や勉強会の開催です。



福島県(大熊町ほか)で開催された「エネルギーフェア'86」には商工会メンバーとともに参加



先進地視察では佐賀県玄海町、愛媛県伊方町、福井県敦賀市など全国の原子力発電所立地点を発展会役員が訪れ、町づくりの取り組みや安全対策、住民の暮らしぶりなどを視察しました。

また、原子力発電所立地点で毎年開催されていた「エネルギーフェア」にも参加。全国からの参加者と情報交換を行うとともに、エネルギーや原子力、地域振興に対する見識を深めていきました。

地元への啓発活動として行ったのが講演会や勉強会です。原子力発電や放射線の専門家を招いて仕組みや安全性についての勉強会を行うとともに、「人づくり」「まちづくり」をテーマに、元マラソンオリンピック選手・貞永信義氏の講演会



マラソンオリンピック選手の貞永信義氏講演会(上) 萩本欽一氏講演会(左)



(1987年・創立5周年総会)や、タレントの萩本欽一氏を招いた講演会なども開催しています。

一方で、町づくりのためには地元上関のことを知ることも重要だとこの観点から、会報では『ふるさと探訪』と題した上関の歴史や文化を紹介する記事の連載を開始しました。

1988年には会報が100号に到達。これを記念して、町内各地で様々な人たちに町の将来への期待をインタビュー。それらをまとめた特集号を発行しました。



室津保育園園児が描いた上関の未来予想図(左上)と、当時の園児ら(上)

また、同年7月には発展会の総会を八島で開催。八島古浦の海水浴場には臨時の連絡船が運行され、町内外から約400人の参加者が訪れて盛り上がりました。



八島で行われた発展会総会 このあと「八島の集い」として民芸会などが行われた

1989年、会報の名称を「希望」に変更して以降も町づくりのための活動は継続。より現実的な事例を学ぼうと、原子力立地による具体的な振興事例の視察を開始しました。当時直近の事例として、1989年に原子力発電所が稼働を開始した北海道泊村を訪問。電源三法交付金の利用や隣接市町と連携した地域振興事例などを視察しています。

## 10年間の出来事

この間の主な出来事は次の通りです。

1986年4月、旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で事故発生。同年6月、室津公民館で国による説明会を開催しました。

1989年8月、中国電力が共第109号共同漁業権管理委員会に対して環境調査の申し入れを行いました。

1990年、隣接の柳井市で建設が進んでいた柳井発電所(LNG火力発電)が稼働開始。これを機に



柳井火力発電所(2011年撮影)

同市の交付金施設や地域振興に関する取材を行い、会報で紹介しました。1991年(平成3年)10月26日、原子力発電所誘致による町づくりに向けてさらなる一歩を踏み出そうと、発展会はその役割を「上関町まちづくり連絡協議会」に受け渡しました。

● 謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
● 掲載の上関町まちづくり連絡協議会の30年の軌跡を見て、発足当初から多くの上関町民が原子力発電所建設を契機とした豊かな町づくりに、大きな夢と希望を抱いていたことがうかがえます。今も多くの上関町民は、その夢と希望を持ち続けています。● 近年は発足当初のように多くのイベントを行うことができていませんが、青壮年連絡協議会を中心に講演会や勉強会を行い、広く町民に原子力発電所建設の理解と必要性を訴えています。必ず原子力発電所建設は実現するはずですが、今年も町民一人ひとりが力を合わせ、夢に向かって頑張りましょう。● 最後になりましたが、今年が皆さんにとって良い年になりますよう祈念しています。(K)

## 後記